

新たな植樹への取組み ～ボランティアとともに～

釧路湿原森林環境保全ふれあいセンター

宮本 元宗

川渕 義昭

1. 課題を取り上げた背景

当センターでは、釧路湿原自然再生協議会の協議を経て、雷別地区国有林の自然再生事業を実施しています。

この事業を実施するに当たり、森林再生に係る植樹等の各種作業について、地域住民やボランティアの参加が可能なものは、その参加を得て行うように努めています。

このようなことから、自然再生事業地で活動しているボランティアグループを紹介するとともに、当センターで試行的に取り組んでいる植樹方法を報告します。

2. 取組みの経過

雷別地区国有林は、釧路湿原東部3湖沼の一つ、シラルトロ沼に注ぐシラルトロエトロ川最上流部に位置する森林で、下流部の数キロにわたる貴重な湿原を育む重要な森林となっています。一方、当該地区は平成12年に、トドマツ人工林が立枯れ被害を受けたため、笹地となっている箇所が点在しており、自然再生事業は、この笹地となっている箇所を対象として、森林再生を実施しています。

このような中、雷別ドングリ倶楽部は、釧路湿原上流地域で森林再生に取り組むため、当センターが立上げたボランティア団体であり、森林再生に係る各種作業をはじめとして、森林で実施する林業体験や森林環境教育なども行っています。

3. 実行結果

自然再生事業地では、大型機械による地拵を実施した箇所及び土場敷跡地で、広葉樹を植栽しています。また、風倒木等のため大型機械で地拵ができなかった箇所では、ボランティアによる新たな植樹の試行として、笹をパッチ状に刈払い広葉樹を植えました。

4. 考 察

これまで、大型機械により地拵を行い植栽した箇所については、エゾシカの足跡や植栽木の食痕が多数確認されており、食害による植栽木の生育不良が懸念されていましたが、パッチ状に刈払い植栽することで、エゾシカの通り道とならず、それによる食害が軽減されることが想定されます。今後は、この方法の有意性について、データを蓄積し検証に努めたいと考えています。

また、雷別ドングリ倶楽部については、更に活動を活発化して、多方面にアピールしながら、釧路地域の森林再生活動や森林ボランティアの輪が広がるよう、活動を進めたいと思います。